

～岩手だからこそできる教育 やるべき教育～ いわての復興教育

いつ起こるか分からない、そして私たちの日常生活を脅かす災害に対して、より一層アンテナを高くし、想定できる最善の対応を整えておくことや、想定を超える事態にも適切に対応できる力がますます求められます。

「いわての復興教育」は、東日本大震災で学んだ教訓を学校教育の中に生かし、未来を創造していくために、学校教育の根幹に据え、力強く生きていく子どもの育成をねらいとしています。

管内復興教育研修会

令和7年9月2日(火)に、北上川学習交流館あいぽーとにおいて『管内復興教育研修会』を行いました。講義「いわての復興教育の推進について」、講話「いのちてんでんこ～教訓を語り継ぎ、未来を創出していくために～」実践交流を通して、「いわての復興教育」の理念等を確認し、未来志向の復興教育の在り方を考える機会となりました。



講話「いのちてんでんこ～教訓を語り継ぎ、未来を創出していくために～」

講師：「いわての復興教育」サポーター

元釜石市立釜石東中学校副校長 村上 洋子 氏

東日本大震災発生時、釜石市立釜石東中学校に副校長として勤務し、経験した避難の様子、そしてその後の復興への足取りを、当時の資料に基づき実体験を交えてお話いただきました。

子供の命を救うために、子供たちの未来をつくるために、学校として何ができるのか、復興教育の重要性を再認識することができました。

<参会者の感想>

- ・復興教育が、究極的には人材育成を目指すものであることを忘れず、未来を創る子どもたちを育てていきたいと強く思いました。
- ・村上先生のご講話を拝聴し、心が熱くなりました。復興教育を改めて意識しながら、今後の教育活動に取り組んでいきたいと思えます。
- ・命の大切さや、日常生活が送れることのありがたさを改めて実感いたしました。自分自身も精一杯生きながら、周囲の人々を幸せにできるような人づくりに努めていきたいと感じました。
- ・日々の教育活動の積み重ねが、いざという時の子どもたちの行動につながることを教えていただきました。私たち教職員が担っている役割の重さを改めて認識し、今後も子どもたちに多くのことを伝えていきたいと思えます。

講義「いわての復興教育の充実について」

講師：岩手県教育委員会事務局 学校教室

産業・復興課長 佐々木 宏幸

「いわての復興教育」の理念や定義、学校経営への位置付け、副読本の活用方法等についての理解を深めました。

「いわての復興教育」が目指すものは郷土を愛し、その復興・発展を支える「ひとづくり」であるということを再確認し、3つの教育的価値「いきる・かかわる・そなえる」を具現化するための方策を学ぶことができました。

<参会者の感想>

- ・「いわての復興教育」プログラムが、どのような思いで作られたのかを知り、震災について子どもたちが自ら考え、行動できるように指導に生かしていかなければならないと感じました。
- ・内陸では、震災の記憶が風化していると感じている人の割合が51%に達するという事実、驚きを覚えました。
- ・「いわての復興教育」は、教育活動の根幹に位置づけられていることが分かりました。現在行っている教育活動が、どのように復興教育と結びついているかを改めて見つめ直していきたいと感じました。
- ・「日本海溝・千島海溝沿い巨大地震および後発地震」が、今後30年以内に発生する可能性が40%あるというお話に、思わず「まさか…」と感じました。東日本大震災の教訓を踏まえ、今後起こり得る災害に対して「正しく恐れる」ことが重要であると改めて認識しました。

実践交流「各校における復興教育の推進」

「3つの教育的価値、21の項目」を視点に自校の復興教育計画をチェックし、講義内容や他校の取組を参考に、自校の計画について改善の方向性を見通す機会となりました。

<参会者の感想>

- ・他校との交流を通じて、復興教育というと、震災に関する学習を想起しがちでしたが、「郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成していくこと」が重要であるということを確認しました。